



第4期 唐津市
地域福祉計画・地域福祉活動計画

唐津市
唐津市社会福祉協議会

支元合心
共心生起
安心住持
唐津

目次

はじめに

特集記事 中高生座談会 市長と語る ～ふるさと唐津への想い～

第1章 計画の策定にあたって	1
第2章 計画策定の方法.....	9
第3章 地域福祉を取り巻く現状.....	17
第4章 基本的な考え方	33
第5章 取り組みの内容.....	55
基本目標Ⅰ 誰もが安心して暮らせる唐津になろう	57
基本目標Ⅱ つながり、共に生きる唐津になろう	75
基本目標Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう	85
第6章 計画の推進に向けて.....	105
資料編.....	111

「福祉」ってなあに？

「福」も「祉」も、「幸福」や「しあわせ」を意味する漢字です。
英語ではよく「welfare(ウェルフェア)」という言葉で表します。

welfare = well + fare
よく、十分に 生きる、暮らしていく

語源をたどると、「福祉」は人がしあわせに、よりよく生きていくことにつながるもの。

みんなで、自分のことだけではなく、人のしあわせや、よりよく生きることについて考えてみましょう。

はじめに

このたび、市民と地域、行政の協力による地域共生社会の実現を押し進めるため、基本理念に「支え合い 共に生きる 安心なまち 唐津」を掲げた第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定いたしました。

今や急速に進む人口減少社会の対応として福祉行政水準の堅持は喫緊の課題であることは言うまでもありませんが、日々変化する新たなニーズや課題に対しても、解決に向けて真摯に取り組む必要があります。そのためには、地域の皆様や社会福祉協議会をはじめとする関係団体の皆様との連携やつながりをこれまで以上に深め、常に今求められているニーズは何かといった点に目を向けていくことが、大切だと考えております。

市といたしましては、市民の皆さんが優しさと温もりを感じられるまちづくりを進め、誰一人取り残さない包摂的な社会の実現に向け、一步一步、着実に地域福祉施策の推進に努めて参る所存でございますので、引き続き皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

最後に、この計画の策定にあたり、意識調査や唐津市福祉を考える会等を通じてご意見をお寄せいただきました市民の皆様や関係機関の皆様、そして計画案の取りまとめにご尽力いただきました唐津市地域福祉計画策定推進委員会の委員の皆様から感謝と御礼を申し上げます。



唐津市長 峰 達郎



急速な少子高齢化に加え、核家族化や単身世帯の増加、住民相互のつながりの希薄化など、地域を取り巻く環境の変容に伴い、虐待や孤独死、ひきこもりといった問題も増加しており、生活課題の潜在化、複雑・多様化はこれまで以上に危惧されるところです。

唐津市社会福祉協議会は、地域福祉の推進を担う民間の団体として、より支えあい活動が進展するよう、住民同士で地域福祉について話し合える場、誰もが活躍できる場、福祉の心を育む学びの場を展開していますが、住民や福祉団体とのネットワーク構築はもとより、行政とも着実に連動していくため、第4期の『唐津市地域福祉活動計画』は、『唐津市地域福祉計画』と一体的に策定をしました。今後の評価や見直しについても一体的に行いながら、地域福祉活動を推進していく所存です。

福祉で取り扱う分野はこれからも広くなる一方で、担い手となる人口は減少しており、住民のみならず各機関・団体とこれまで以上に連携が必要になります。みなさま一人ひとり、そして誰もが参加する地域福祉へ、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

唐津市社会福祉協議会
会長 吉田 善道

市長と語る ～ ふるさと唐津への想い ～



誰もが安心して暮らせる唐津市を作りたい。その想いのもと、これからの時代を担う中学生や高校生と地域福祉について意見を交わしました。

わたしたちにできること・・・



第一中学校3年
折田清篤さん

折田さん) 私は生徒会の一員として虹の松原や唐津くんちの清掃そして災害義援金の募集活動等を通じ、ボランティア活動は皆の協力がないと成り立たないと感じました。紛争地域への国境なき医師団の派遣でも、いろんな人の努力や支援が重なって実現するはず。助け合いの心を育むことが一番大切なことだと思います。

市長) 令和5年7月豪雨の唐津市の災害では、多くの小・中学生が募金を集めてくれました。自分たちがやれることを率先してやってくれたことは、市民の誇りで、本当にうれしく思っています。

折田さん) たくさんの募金が集まってびっくり。募金活動に参加した人が感じた気持ちは、また次の活動にもつながっていくのだと思います。

田中部長) 昨年の災害では、市で初めて災害ボランティアセンターを設置しましたが、竹永さんは土日や夏休みに合計21回も参加して

くれました。実際に災害ボランティア活動に参加してみてどうでしたか。



唐津工業高校3年
竹永望稀さん

竹永さん) 現地では死亡された方もいました。被災された方が少しでも早く元の生活に戻れて、笑顔になって欲しいという気持ちで、土嚢袋を作ったり、家屋の災害ゴミの撤去を手伝いました。4月から自衛官になるので、唐津で災害が起こったら一番に駆け付けたいと思います。

市長) 私たちには市民の皆さんの生命、財産を守る使命があります。日頃から災害が起こったときはどう対応するかといったイメージを持つことの大切さを痛感しました。災害支援活動を体験して、何が必要と思いますか。



竹永さん) お年寄りが多い地域では日頃から人と人の交流が大切です。特に災害直後では、近所の方同士の助け合いの力が支援や災害復興の原動力になると思います。

井田委員) 私は、九州北部豪雨の災害支援で被災ごみの片づけ作業に参加したことがありますが、その経験から得られた価値観は絶対的なもの。一度でも災害現場に行くとその記憶はずっと心に残ります。昨年の唐津の豪雨災害では、避難所に障がい者の作業所で作ったパンを届けました。自分たちができる支援の形はそれぞれあっていいですね。



策定委員
井田基貴さん

みんなの笑顔のために・・・

田中部長) 市の高齢者の割合はどのくらいだと思いますか？

参加者全員) 全員が5人に1人と回答

田中部長) 実は、33%を超え、3人に一人が高齢者。唐津は全国平均よりも高く、出生数も令和5年は年間700人を切るような状態。赤ちゃんからお年寄りまでみんなが幸せに暮らすことができればいいと思いませんか。



唐津南高校1年
峰 陽花さん

峰さん) 私の祖母はすごく元気です。祖母のような元気な高齢者が社会と関わりを持っていけると地域はもっと元気になるのでは。お年寄りでもがやる気や生きがいを感じながら働ける場所があったらいいと思います。

市長) シルバー人材センターに登録して頑張っている元気な高齢者の方もたくさんいます。でも、働くこと以外でも、元気な方は地域の皆さんの中心となってコミュニティを作っていく力がある。子どもからお年寄りまでみんなと一緒に笑い合える場所があればみんな元気になりますね。



唐津東高校1年
牧山愛奈さん

牧山さん) 私には義足の祖父がいるので特に思うのですが、唐津は段差の多い道が多い。車椅子やベビーカーでの移動はもっと大変じゃないかなと思います。あと、公共交通機関が少ないので、免許返納した高齢者の皆さんは出かけるのも不便じゃないかと思います。お年寄りでも公共交通手段が確保できれば、買い物や通院等、一人で出かけることも億劫にならず、健康に楽しく暮らし続けられるのではと思います。

江口さん) 高校生支援団体 WeD でいろいろな地域活動をしています。私は、学校と家以外で居場所ができたことがすごく大きいと感じています。今、少子化が進っていますが、子育て政策として保育園、公園、習い事等の施設の充実はもちろんですが、子どもの成長に合わせた第三の居場所づくりの大切さを実感しています。



唐津東高校2年
江口紗也さん

市長) 子どもから体の不自由な人までが快適に通行できる道路があったらと考えてくれる皆さんの視点や気持ちがうれしい。皆さんが「からっ子」でよかったと思えるよう行政も応援したいです。

ふれあい、支え合うことの大切さ

折田さん) 市内にも外国人が多く在住していますが、特にインバウンドの方に対する外国表記の案内板が少ないと感じます。今は翻訳アプリも進化しているので、個人でもできるグローバル化への対応も必要だと思います。

市長) 国際基準の案内標識はとても重要なことですね。誰がみてもわかる案内板は不可欠といった意見はしっかりと受け止めたいと思います。

山口さん) 僕は足が少し不自由です。学校生活では、移動教室で階段を昇るときに友達がそっと体を支えてくれたりしてくれます。それから家に遊びに来たときには、重い荷物を2階まで「持とうか？」と優しく声をかけてくれたりすることが、特にうれしいです。



鬼塚中学校2年
山口 柊さん

小林さん)サーフィンのメ
ツカの立神岩付近に
移住した外国人が住
み始めましたが、地元
の「輪」に入れてない
のかも気になります。
外国人であっても、地
域に溶け込んで、地域
の一員となってくれる
よう僕らも積極的に話
しかけ、コミュニケーションを通じて住みやす
い街と感じて欲しいです。



湊中学校3年
小林祐太さん



策定委員
山口ひろみさん

山口委員)中学校子育て
サロンで出会った中学生
が高校生になって、唐津
駅で再会したときに声を
かけてくれて、ベビーカー
や荷物を持ってくれたと嬉
しそうに子育て情報支援セ
ンターに連絡してきてくれ
たお母さんがいました。周りに気を配り、自分
ができることを考え、何か手伝うことがないか
という声をかけることは勇気があること。他の
人の手助けが必要と思える人に、どう寄り添
えばいいかを考えてくれる唐津の子ども達の
優しさに元気をもらいました。

井田委員)ひとり一人が違って当たり前で、違う
ことを認めるところからスタートできることもあ
るのではないかと思います。

市長)他の人と自分が違うことを認め合いなが
ら、相手を思いやり、支え合う勇気を持つこと
はとても大事なことです。身の回りで起きているこ
とに関心を持つことができる人が1人でも増
えると、とっても幸せな地域になれますね。



共に生きる・・・

江口さん)義足の後輩は、学校でエレベーター
を利用していますが、他の子は誰も使わない
ので、自分だけ利用しづらいと言っていました。

井田委員)特に体が不自由な方は、遠慮したり、
他の人を気にして、自分が利用することをた
めらったり、嫌な思いをすることもあると思
います。どうしたらいいと思いますか。

江口さん)障がいや病気に関わらず、みんなが
気兼ねなく利用できるよう、境界のようなもの
がなくなれば、誰もが安心して暮らすことがで
きるようになると思います。

秀明副市長)皆が助け合うことができる社会の
実現を目指していきたいですね。これから皆
さんが中心となってどんどん提案していつて
欲しい。期待しています。

山口委員)子ども向けの回覧板って、面白い発
想。伝えやすい環境づくりってとても大切で
すね。



牧山さん)回
覧板には、イベ
ント告知だった
り面白い内容
もたくさんある

けど、子どもはあんまり見ていません。もし、子
ども向けの内容の別冊みたいなものがあるだ
けでも、地域活動についての関心が広がるか
なと思います。

江口さん)今回、「福祉まるごと相談窓口」があ
ることを初めて知りました。身近な相談窓口と
してみんなの認知度があがればもっと利用し
てくれるはず。今の時代は SNS での発信。若
い世代はInstagramからたくさんの情報を
得ています。知ってもらふ機会を増やすために、
フォローしてもらふ工夫が大事です。

峰さん)私が高校生支援団体の WeD に入って
地域活動をするようになったきっかけはチラシ。
写真など、興味を持ってもらえるような構成も
大切だと思います。



ふるさと唐津への想い・・・

秀明副市長) 人口減少が進んでもふるさとを想う気持ちは年代を問わず共通のものです。皆さんが考えている唐津の好きなおとこや、これからも大切にしていきたいところを教えてください。

折田さん) 家族で市内の山に登ったり、山瀬の里にキャンプにいったりします。僕は、モヤモヤしたときに鳥島に行くのが好き。自然豊かな唐津には楽しめるポイントがたくさんあります。

江口さん) 商店街の街並みがとても好きです。挨拶に笑顔で応えてくれる。そんな優しい唐津の人たちの人柄が好きです。

小林さん) みなとん里に立ち寄ったときにお年寄りの方が「受験勉強どうね？」など、気軽に話しかけてくれ、自分のことを気にかけていると思うとうれしくなる。小さな話題から広がる会話からは、見守ってくれている人の優しさや心の豊かさを感じることができる。これからも人のつながりを大切にしていきたい。



峰さん) 唐津くんちを熱く語る友達を見て、伝統文化を大切に守っていくことの大切さに気づきました。それから相知町は人が優しいし、星がきれい。まるでプラネタリウムを見ているみたい。これが私の地元と唐津の好きなおとこです。

牧山さん) 中学生になるときに福岡から引っ越してきましたが、忙しい日常の中でも唐津は時間がゆっくり流れていていいなと思います。

山口さん) 唐津と言えばやっぱり唐津くんちです。伝統が受け継がれているところがすごい。

竹永さん) 海・山・川に囲まれた自然豊かな環境や文化、おいしい食材がたくさんあるところを大切にしていきたい。

秀明副市長) 市で開催した企画提案コンテストの Will プロジェクトでも高校生からまちづくりや観光等いろんな提案を受けました。いま、皆さんがいろんな場面で社会参画をしてくれていますが、今の気持ちを持ち続けて欲しいと思います。

作品名「上杉謙信」



佐賀県立唐津特別支援学校
高等部1年 S・Wさんの作品

【作品の紹介】

唐津くんちの曳山が好きで、その中でも勢いのある上杉謙信を力強く描きました

※ 開催目的等は、15ページ「5 中学生・高校生の参画」
をご参照ください

